

〈連載〉
中川大介／西野鷹志
庄司証／長谷山裕一
米田哲平／夏井俊介
國立大貴／中村ひでのり

コロナの時代に。



TAKE FREE

2020年秋号 (第66号) 2020年9月30日発行 (季刊)
発行人・池田 誠 編集人・中村ひでのり



(一財)北海道国際交流センター (HIF)
040-0054 函館市元町1-1-1 TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail: volute@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volute/

HAKODATE から、世界へ、未来へ。

SEC
SEC CORPORATION LTD.



NEC NEC 販売特約店

株式会社 エス イー シー

〒040-8632 函館市末広町22番1号
TEL. 0138-22-7188 FAX. 0138-27-6814
URL: <http://www.secnet.co.jp>

品質 (9001)



JQA-QM3704
情報通信事業本部

環境 (14001)



JQA-EM4119

品質 (9001)



ISO 9001
情報処理事業本部

情報セキュリティ (ISMS)



ISO/IEC 27001
情報処理事業本部 運用管理部
医療ソリューション事業部 クラウドソリューション部



コロナの時代に。

特集

足腰の強いホテル業に
遠藤浩司／函館ホテル旅館協同組合理事長 p5

飲食業の新たな可能性を
高野信子／株式会社函館フーズプランニング代表取締役社長 p7

元気な地域を日本の活力に
岡内勇二郎／株式会社 JTB 北海道事業部 函館オフィス長 p9

今できることを、できる範囲で
井上記一／道愛女子中学校・高等学校教頭 p11

人と水と空と森の話
越後の水辺から ● 中川大介 p14

街に関する一考察 ● 長谷山裕一 p17

昔の子ども、今どきの子ども
水泳授業 ● 庄司 証 p18

連載 米田哲平／夏井俊介／国立大喜／中村ひでのり p19-21

【ライカはゆく】 ● 特別寄稿／第 18 話

寒風干し p22
西野鷹志／文・写真

H I F ● インフォメーション INFORMATION p25

本誌設置場所 p26
FROM EDITOR・奥付

FROM
EDITOR

新しい日常の時代を迎えて

昨年12月、HIFの設立40周年行事を行い、新たな船出を関係者で祝った。だが今年に入り、新型コロナウイルス感染の広がりによって、毎年続けてきた「国際交流のつどい」や「日本語日本文化講座夏期セミナー」は中止を余儀なくされた。年4回定期発行していたこの「@h」も夏号を休刊した。

継続は大変だ。物事をやめる場面はあっさりと訪れる。プロ野球で連続安打を続けていたバッターが、記録が途切れた時にほっとしたという話を聞く。似た感覚を今回味わった。継続することが最優先になっていて、他の方法を試したり、別な道を考えたりすること、あるいはスクラップ&ビルドができていなかったのかもしれない。

海外との交流ができなくなった今、国際交流を通して視野を広げようとしてきた人の動きは、ハンディキャップがある人やマイノリティーの人たちとの交流、そしてそれら多様な人々が共に支え合う社会づくりへとシフトしていくだろう。対面しての密な交流もオンラインでの交流も、グローバルな交流もローカルな交流も、これまでしていなかったことを試しながら、新しい時代を迎えていきたい。

(一財) 北海道国際交流センター(HIF)
専務理事 池田 誠

HAMADE

北海道の技術を世界の海へ ―。

東和電機製作所が世界トップシェアを誇る「HAMADE イカ釣機」。北海道の漁師の勤と経験をデジタル化し、マイコン制御によるイカ釣りの自動化を実現しました。現在、その技術は世界へと広がっています。たとえば、お客様の船に同乗しての操作技術の提供はもちろん、多様なニーズに沿った改良・修理など、きめ細かなサポートを行い、大きな信頼を得ています。



HAMADE イカ釣機 EX-2 (国内向けモデル)

株式会社 東和電機製作所

〒040-0077 北海道函館市吉川町 6-29 TEL: 0138-41-4410

<http://www.towa-denki.co.jp/>

はじまりはひとりの漁師の声でした。
昭和38年、弊社は函館ドックの下請工場として、船舶の配電盤、分電盤を製作する。東和電機製作所として創業いたしました。間もなく、ある漁師の方から、その当時存在しなかった「手回しのイカ釣機があればいいのに」という声をお聞きし、それがきっかけとなり「全自動イカ釣機」の開発がスタートしました。



コロナの時代に。

なにが正しいのか分からない。

どう行動すればいいのか分からない。

新型コロナウイルスの波が世界に広がる今、

だれもが悩み、苦しんでいる。

手探りしながら進んでいくしかないのだろう。

人間はそうして幾度も

感染症を乗り越えてきたに違いないから。

道南の人びとの懸命の模索の中に、

明日への手がかりを見つけた。

足腰の強いホテル業に

遠藤浩司／函館ホテル旅館協同組合理事長

2月28日、緊急事態を宣言する北海道知事の会見が終わると、函館元町ホテルには次々と予約キャンセルのファックスが届き、紙の束ができた。キャンセルのメールも何通も送られてきた。「2月の春節や雪まつりのお客さんだけでなく、繁忙期の春休みも、あつという間に予約の9割以上が消えました」と社長の遠藤浩司さんは言う。

新型コロナウイルスの問題が浮上してから、スタッフのマスク着用や手指消毒用アルコールの準備、アクリル仕切り板の設置など感染対策はしていたが、緊急事態宣言後は、極端な品不足になったこれら資材の調達や対策徹底に奔走する日々が続いていた。「お客様がチェックア

ウトすると部屋の窓を全開にして24時間換気し、アルコールで隅々まで消毒した。食事は元々、定食スタイルだったので問題はなかったが、衛生面にはかなり気を使っています」

消えてしまった需要

39ある函館ホテル旅館協同組合の加盟店では、食事をビュッフェスタイルから定食スタイルに変えたり、ビュッフェのままでもトングをその都度変えたりと、それぞれ最大限の注意を払っているという。それでも宿泊客数は少なく、スタッフの勤務日数が減り、アルバイトの仕事がなくなるなど雇用への影響は深刻だ。

「北海道が実施した『どうみん割』も宿泊客の取り込みには一役買ったが、あまりの人氣でまたたく間にウチへの割当分が売れてしまったのは残念。函館市が独自に行った『グルメクーポン』は、宿泊客一人に2000円の飲食クーポンが付くから、ホテルにとっても飲食店にとっても効果的だったのでは」

宿泊業には修学旅行も大きなマーケットだ。青森からの修学旅行生は函館泊が例年のパターンだが、今年は青森県が県内で



の修学旅行を推奨し、函館ではかなりの数がキャンセルになった。加えて、胆振管内白老町に7月開業したアイヌ文化復興拠点「民族共生象徴空間（ウポロイ）」に修学旅行が流れている

影響も受けて事態は深刻だ。

「修学旅行を行う学校側からは、通常なら4人収容できる部屋を生徒1人に1部屋割り当ててという要望です。宿泊客が少ないから何とか対応できています」と遠藤さんは苦笑する。東日本大震災や、胆振東部地震

で起きた北海道のブラックアウトの時にはキャンセルが相次いだ、今回の新型コロナウイルスほど大きな打撃を受けたことはないという。

魅力発信を続けて

宿泊業界が苦しい経営状況を乗り切るには、行政による助成金、補助金、給付金を活用し、つなぎ資金の無利子・無担保融資手続きを進め、業界挙げて感染症対策をしつかり進めた上で、宿泊客の受け入れ体制を築いてゆくことになる、という。

「Go Toトラベル」にも期待はしたい。函館のグルメクーポンのよ



うに利用者に高く評価される施策を打てば、一つの経済政策で投入したお金がレバレッジ（てこ）の効果を発揮し、経済効果を2倍、3倍に高める。そうして経済が回るよう互いに協力してゆきたい」と、遠藤さんは語気を強める。

北海道新幹線の開業や函館アリーナのオープン、大型クルーズ船が入る港湾施設の整備などで函館観光は魅力を維持してきた。新型コロナウイルスでそれを失ったというわけではないだろう。ある会社が今回の「Go Toトラベル」で行きたい観光

地のアンケートを行ったところ、函館は全国4位。観光地としての魅力は揺るがないものがある。

「函館にも構成資産の遺跡がある『北海道・北東北の縄文遺跡群』の世界遺産認定に向けた機運を高め、函館の魅力を世界に発信することで、必ず活気がこの街に戻ってくる。今は安心して旅ができる環境を整えることが大切。そして地元のお客様を大事にすることで、わが社は足腰の強いホテル業になる」と遠藤さんは前を見る。



えんどう・ひろし／函館出身。東京、大沼、屈斜路のプリンスホテルで勤務した後で独立。2005年にホテル「海の時計」を開業し、2007年から「函館元町ホテル」を経営。「ホテル函館山」「別邸 開港庵」も運営する。12年から函館ホテル旅館協同組合理事長。

飲食業の新たな可能性を

高野信子／株式会社函館フーズブランディング代表取締役社長

新型コロナウイルスの感染拡大で2月末、函館では次々にイベントが中止となった。2月28日には北海道知事が緊急事態を宣言。道民に週末の外出自粛を呼びかけ、函館をはじめ道内の飲食店の多くは来店客が激減し、宴会が軒並みキャンセルとなって大きなダメージを受けた。

逆境の中で生まれたのが「#函館テイクアウト」だ。料理のテイクアウトに活路を見いだそうとする函館の飲食店が、SNSでこんな共通のハッシュタグをつけてお店の情報を発信した。北海道の緊急事態宣言直前の2月25日から、「函館海鮮居酒屋魚まさ」で5種類の弁当の持ち帰り販売をスタートさせていた高野さんが発案し、同じ

道南圏の飲食店からハッシュタグを広めようと参加を呼びかけたのだ。

「壁があるから」

「#函館テイクアウト」はInstagramやフェイスブックを中心に拡大し、今や7600を超える投稿が集まっている。高野さんは「#函館オードブル」「#函館配達」と次々に新たなハッシュタグでの呼びかけも始めた。「スマホひとつで費用の負担なく発信できる方法を整えませんか」とほんの少し提案しただけです。あとは地域が手を取り合ってタグを育ててくれたこと、広報してくれたメディアに感謝しています」という。



苦境に直面した高野さんの決断は早かった。札幌にあった「魚まさ」の札幌すすきの店は、スタッフの給与や家賃といった固定費の負担が大きく、4月末、閉店を決めた。そのまま続けていても赤字続きで、マイナスを取り返すには何年かかる。お客様の来ない飲食店は、あつという間に赤字が膨らむ。「苦渋の決断です。いつかまた札幌に戻り、元のスタッフにも声をかけ、縁があればまたみんなで仕

事をしたい。そのためにもまず本丸死守に徹すること。立ち止まって悩むより、まずは行動。壁があるからこそ、それを越えようと考えてるんです」と高野さんは言う。

4月16日に緊急事態宣言は全国に広がり、「魚まさ」五稜郭総本店は4月25日から5月6日

まで午後8時で閉店することに。5月11日からは一時的に「昼飲み」を始め、全室wifiが整備されていることから、「テレワークやオンライン飲み会の場所として利用を」とPRした。何が正しい判断かなど分かりやうのない新型コロナウイルスに対して、高野さんは立ち止まらずに果敢に攻めてゆく道を選ん

だ。

ジェラート店やキッチンカーの営業スペースなどがあるJRW五稜郭駅前の「ハコニワ」では、週末限定で岩ノリ弁当やおにぎりの販売を始めた。8月3日には、渡島総合振興局内で「おしま食堂」を開店。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて事業者が撤退した食堂の運営に手を

挙げたのだ。食堂の運営は初めてだが、「一般の人もふらっと入れて、函館らしい品が並んだ品ぞろえにしたい。地元の飲食店とコラボレーションすることも立案中です」と意欲を燃やす。

元気を もらせる場

新型コロナウイルス



ルスの感染予防のために会食を控える動きは止まらない。外食産業の存続が厳しさを増す中でも、高野さんは「一緒に食べて、語りあい、その日の疲れを癒し、次の日への元気をもらうことのできる場が飲食店。飲食ですつとやってきた自分だから、諦めずにやり遂げます」と揺らがな

理業も始めた。「飲食店が導入すれば補助金の交付対象にもなる。いい情報は、他のお店にも広めたい」
次なる戦略はと聞くと、「魚まのスタッフみんな決めてることだから」と慎重に言葉を選びながら、「キッチンカーを使つた飲食業の可能性も探ってみて」と教えてくれた。エネルギー

みなぎる目線で見つめる高野さんと「魚まの」の取り組みが、コロナ禍の中で飲食業の新しい可能性を開くのか、注目したい。



元氣な地域を日本の活力に

岡内勇二朗／株式会社JTB北海道事業部 函館オフィス長

今年2月に函館に着任早々、岡内勇二朗さんは次年度に函館港に入るクルーズ船への対応の計画づくりに入った。マスメディアは連日、横浜港に停泊するクルーズ船内での新型コロナウイルス感染拡大を伝えていたが、地域への経済効果の大きいクルーズ船はJTBにとっても重要な仕事だ。

だがその後、国内での感染拡大を受けて、函館で予定されていたクルーズ船の入港や観光イベントの中止が次々と決まる。2、3月は北海道から暖かい地域への移動が加速する時期だが、団体客からも個人客からも次々とキャンセルの連絡が入った。「もはやた大事ではないと感じた瞬間であり、次にすべきこと

に着手する時でもあった」と岡内さんは振り返る。

助成金を活用

1912年の創業以来、JTBは数々の困難を乗り越切ってきたという。その一つが、2011年の東日本大震災だ。被害の大きかった東北のみならず日本全体が自粛ムードに傾き、イベントや旅行は中止が相次いだ。仕事はなくなり、営業もできなくなった。

その時にJTBがとった策が、休業手当などの一部を行政が肩代わりする雇用調整助成金の活用だ。月に4〜8日間休んだ従業員に払う休業手当などに助成金を活用した。当時、労組

にいて会社と危機を乗り越切るためにと話し合いを重ねた岡内さんは、その経験を今回も生かし、いち早くこの助成金を活用した勤務体制を構築した。

旅行業界は1980年代のバブル期まで、ほぼ右肩上がりで成長したが、バブル崩壊後の需要減退は著しく、

JTBは「旅」を企画、販売するにとどまらず、「日常に必要な存在」になるべく脱皮を図った。

JTBが現在掲げるスローガンはこのときに生まれた。「人口減少や地域産業の衰退、健康寿命の長命化、環境問題などの社会課題と向き合い、その解決



を目指して人と物、商いの流れを生み出し、地方創生に貢献する『交流創造事業』を推進する。より生活に密着しつつ、国内外に軸足を置いた多角化戦略に乗り出し、国や北海道などの行政公募案件の事業も手がけ始めたのだ。



たかの・ふこ／函館育ち。短大卒業後からサービス業に従事。母親が創業した「函館フーズプランニング」に入り、2011年、「函館海鮮居酒屋魚まの」札幌すすきの店開店に携わり、店長として勤務。13年に函館へ戻り、旧美原店、旧梁川店で勤務。2018年に母の他界に伴い、現職。2児の母。

オンラインでの営業

世界的に見れば、旅行業界にはいくつも危機があった。1990年代の湾岸戦争や2001年の同時多発テロの際、旅は海外から国内にシフトしたが、人びとの「動きたい」という欲求はやがて強まり、旅行需要は回復に向かった。重症急性呼吸器症候群（SARS）は8か月で

終息宣言が出され、中東呼吸器症候群（MARS）も発生地域が限定されていて、今回のような大きな影響はなかったという。

だが、世界を覆う新型コロナウイルスの影響について、岡内さんは「インバウンド（訪日外国人）事業の回復には数年かかるのでは」と厳しい見方をする。教育旅行も日程の変更や実施時期の変更を余儀なくされ、行き先を近場に変え、日数を減らすなどの工夫が求められている。

JTBも世界の「人流」をストップさせかねない未曾有の事態に危機感をもちながら、新しい時代の生き方を模索している。「かつては働き方改革の言葉もなく、夜遅くまで残業をして、見積り・行程を作成し、遠方のお客様の所に訪問営業を行い、仕事を受注してきた。しかし、今後はリモートでの営業も加速していく



ことになるだろう。新しい生活スタイルの浸透とともに営業スタイルの変革でお客様の心をつかんでいかねばならない時代が到来する。その一方で対面での商談を希望されるお客様には感染症対策を万全にして、今まで以上に安心してご利用していただける体制構築を進めていかなければならない」と考える。

「タカラを掘る」

今できることは、原点に戻ることだと考える岡内さん。「地域にあるタカラ（資源）を掘り



おかうち・ゆうじろう／札幌出身。1998年にJTB入社。釧路支店を皮切りに札幌で団体旅行の営業担当や組合専従、旅行商品の造成担当などを経験し、2020年2月から現職。

起こし、磨きをかけ、人が集まる元気な地域を、日本全体のチカラ（活性化）につなげる」。人と密に関わることを通して顧客の感動を生み、そこから企業活動のエネルギーを生み出したJTBだが、今後はそうしたアナログな世界と、デジタルの世界を行き来する新しい時代を創っていくことになるだろう。「常に時代は変化している。リーダーは気丈に、明るく牽引してゆくことだ。お客様の安全面を第一に、そして地域貢献すべく、お客様に必要とされる会社であり続けたい」

今できることを、できる範囲で

井上記一／遺愛女子中学校・高等学校教頭

2月28日。翌29日に卒業式を控えて、遺愛女子高校は緊張した空気に包まれていた。北海道で新型コロナウイルス感染が広がりが、この日夕刻、鈴木直道北海道知事が「緊急事態」を宣言して、この週末は外出を控えるよう呼びかけたのだ。

学校の方針としては、卒業式は「3密」を避け、感染防止に配慮した形で実施することになっていた。幸いに体育館は広く、卒業生と保護者だけでなら十分な間隔が取れる。ただ、知事会見が終わった途端、保護者や関係者、マスコミからの電話がひっきりなしに鳴った。対応に当たった教頭の井上記一さんは、「卒業式をやる、やらないの決断は、批判も覚悟、学校の

存続にも影響しかねない、見えない恐怖に夜も寝られませんでした」と当時を振り返る。

2年前から「オンライン」準備

結局、時間短縮した形で行った卒業式は、卒業生や保護者の心に残るセレモニーとなり、新聞社やテレビ各局も好意的に報道した。3月10日に予定していた中学の卒業式は、北海道の緊急事態宣言が解除された3月21日に卒業生だけで実施したが、緊張の続く毎日だったという。

遺愛女子中学・高校では、4月16日に安倍晋三総理が緊急事態宣言の範囲を全国に拡大すると、教室で行っていた対面授業

を中止。4月19日から5月末まで、分散登校と課題提出、そしてオンライン授業に切り替えた。

実は同校では2年前から、オンライン授業の導入へ向けて準備を重ねていたという。「これからの時代で求められるICT（情報通信技術）

にしっかり対応する必要があると考えて、学内にICT推進委員会を立ち上げ、教員全員がICTに関心を持つてもらえるように少しずつ試してもらい、そこから始めていたんです」教員皆がタブレット端末を持ち、どこでも使える通信機能の



付いた生徒用のタブレットを140台用意して、授業での活用も模索していた。今回、コロナ禍を受けて行ったオンライン授業では、このタブレットが役に立った。家で授業を受けるわけだから、インターネット回線やパソコン、タブレットがない

新世代をつくる 3つの柱。



運輸

Transport

長年の経験と設備を活かして、お客様からお預かりする大切な積み荷を、心を込めてお運びいたします。

土木

Construction

解体工事や舗装工事・水道工事など、さまざまな大規模工事に、強い「監理力」を発揮しお客様のご要望にお応えします。

環境

Environment

これからの地球環境に配慮し、地元のゴミは地元で処理する「ゴミの地産地消」の活動に取り組んでいます。



株式会社 西武建設運輸

〒041-0803 函館市亀田中野町219番地14
TEL. 0138-47-2738(代)

<http://www.seibukensetsu.com/>



と授業環境に大きな差が出てしまう。実際に全校853人のうち約5%の生徒にはwifi環境がなく、タブレットを貸し出したという。

オンライン授業の各教室にはプロジェクターを用意する。教員はクラスの生徒への個別面談を今まで以上に行い、連絡を密に取って小さな悩みや不安を大きくしないよう対応を徹底した。対面授業に戻った今も、オンラインと対面の「ハイブリッ

「共生」へ模索の日々

「授業」の体制がいつでも取れるように進めている。

対面授業が始まった今、頭を悩ませるのは学校全体での礼拝だ。以前は毎朝、講堂と体育館に集まって全員で礼拝を守っていたが、今はできない。各教室で放送による礼拝を行っているが、今までのような一体感をつくることは難しい。クラブ活動

でも、工夫して練習はできるが、残念なことに行事や大会はほとんどが中止になってしまった。

遺愛女子高校英語科の生徒たちは2007年から、外国人客が乗ったクルーズ客船が函館に寄港した際、得意の語学力を生

かしてボランティアとして地域の情報を伝え、「おもてなし」をしてきた。コロナ禍でクルーズ客船の来航がなくなった今年は、学校で野菜作りに汗を流し、できた野菜をこども食堂など必要とするところに届けている。また戦後75年を迎えたことから、ボランティア活動として8月、「2000羽の折り鶴プロジェクト」として被爆地の広島、長崎に折り鶴をそれぞれ約1200羽送った。「今できることを、自分たちのできる範囲でやってみる」という考えだ。

遺愛女子中学・高校が、教育



いのうえ・りかす／帯広出身。留萌管内の公立中学校で4年勤務した後、遺愛女子中学・高校を運営する学校法人遺愛学院の職員となり、1992年から遺愛女子高校で国語を教える。2015年から現職。

で大切にしていることのひとつが「人と人とのつながり」だ。社会の中で生きていくために、互いに助け合い、つながりを持つことの大事さを学ぶ。同窓生の絆が深く、気軽に学校を訪ねる卒業生が多いのが「遺愛」の校風だ。「遺愛はある意味、密であることが学校のポリシーなんです。ただ、今はそれができないので、オンラインにも対応してゆく必要がある」と井上さん。これからも、教育の中でどのようにに新型コロナウィルスと「共生」してゆくか、模索する日々が続くそう。





越後の水辺から―大熊孝「洪水と水害をとらえなおす」を読む

中川大介／人と水研究会

PROFILE

岩手県生まれ。新聞記者。カヌーや溪流での釣り好きが高じて人の暮らしと水とのかわりに興味をもち、仲間と「人と水研究会」をつくって、水辺歩きを続けている。

なんと美しい橋か。滔々と往く水に低く低く、寄りそうようにして。

川面をわたる風の中、ほれほれと見上げた。

2011年初冬のこと。新潟市の信濃川にかかる萬代（ばんだい）橋の下を、小舟でくぐった。橋長306・9mの鉄筋コンクリート橋。優美な弧を描く6連アーチに、御影石の化粧張りが風格を添える。

越後は水の国である。信濃川、阿賀野川という大河が流れ、かつては支流が縦横に走って無数の「潟」が点在した。越後の歴史は「水との闘いと共存」であった。放水路を設け、ポンプ群で水を排し、潟を干して越後平野

は一大農業地帯となった。

信濃川は新潟市で日本海へ注ぐ。信濃川という「自然軸」と、駅と街の中心を結ぶ「都市軸」の交わる場所。それが萬代橋である。

そう教えてくれたのは、新潟大学名誉教授の大熊孝さんであった。1942年生まれ。ダムによる治水に異議を唱え、「人と川とのかわり」の再生を訴えてきた河川工学者である。

市民の「水とのかわり」

今の萬代橋は、明治建造の初代木造橋から数えて3代目。1929年（昭和4年）に完成した。欄干は高さ85cmと低い。渡り行

きつつ川面を見やれば、沃野を潤して長旅を終えなんとする豊かな水の広がり心が満ちた。

2004年、国が萬代橋を重要文化財に指定したが、この欄干が問題点となっていた。建設省が、欄干の高さを110cm以上にせよという通達を出していた。そんな通達が出ると、転落事故が起きて裁判になれば負けるから、一般に橋の管理者は欄干を上げてしまう。

「それではこの橋の文化的固有性が失われる」。文化庁の建造物指定を審議する場で、大熊さんらは議論した。「欄干はそのまま」という市民の陳情や新聞投書新潟市長が国に持参して現況維持を訴え、欄干の高さを変

えずに指定がなされることになった。歴史の中で醸成された新潟市民の「水とのかわり方」が、中央政府を動かしたのだ。

だが、その市民意識がそう盤石でもないことを、大熊さんは近著「洪水と水害をとらえなおす」（農文協、2020年）で書いている。

信濃川と阿賀野川の間、通船川という小河川がある。汚れて臭いと見向きもされない川だった。大熊さんら「新潟水辺の会」は、この川の歴史や動植物、水質を調べ、学習会を開き、舟を使ってごみ掃除を行った。通船川の「再生市民会議」が1997年に立ち上がり、護岸の改修、新たな橋の建設といった「市



信濃川にかかる萬代橋＝2011年、新潟市

りの開催やカヌー乗船体験といった水辺に親しむ活動

を積み重ねて、河川管理者が川べりのフェンスを一部で取り除き、舟に乗り降りしやすいよう階段式の護岸まで造ったのであった。

ところが、近隣住民から「祭りの歌や踊りがうるさいのでやめてほしい」「フェンスがないと子どもが川に落ちたら危ない」といった苦情が、行政や「水辺の会」に届くようになる。やがて階段護岸は撤去され、フェンスも復元され

てしまった。大熊さんが病氣療養中の2017年から翌年にかけてのことだったという。

消えゆく「民衆の自然観」

大熊さんはこう振り返っている。

「水辺と人が共生するというコンセンサスが日本国民から消失してしまったことを痛感させられた。明治維新で近代文明を取り入れ、自然を支配し、克服することに力を注いできたこの150年間に、国民の多くが自然と乖離していることのほうが、楽で安心であるという精神をつくりあげてしまったのであろう」

「洪水と水害をとらえなおす」洪水は「災い」であるが、浄化作用や肥沃な土壌といった「恵み」をももたらす。大熊さんはこの本で、自然災害の多い日本の伝統的な自然観について「日本人は、自然のなかに普段助けしてくれる神と、時々災難をもた

らす荒ぶる神の両方を見ていないければならなかった」「それは、災害を一方的に否定することではなく、矛盾した状況を受け入れるということであった」と書いている。

けれども、そうして地域ごとに育まれた「民衆の自然観」は、近代日本の「国家の自然観」の下で排斥されてゆく。中央集権政府は強力な科学技術を駆使して自然の「克服」を目指し、殖産興業や経済成長を追求した。巨大ダムはその象徴である。そうした技術に頼り切って住民も洪水常襲地に家を建てるようになり、家屋のかさ上げなどの備えをしなくなった。

「矛盾を受け入れる」ことを忘れ、「恵み」の収奪に傾く現代の日本人に、大熊さんは警鐘を鳴らしてきた。「水辺の会」の取り組みは「人と川のかかわり」の再生を目指す一歩であったのだが、栗ノ木川の事例を見れば、その困難さが分かる。

民参加」による川づくりがなされた。通船川の支川である栗ノ木川でも、市民と「水辺の会」が祭

「死ぬがよく候」

この夏も、日本列島は豪雨災害に襲われた。国土交通省は、行政の力だけで今日の猛烈な水害は防ぎ切れないとして、「あらゆる関係者により流域全体で行う流域治水」という考え方を打ち出した。流域にあるビルの地下貯水槽の整備、田畑の遊水池化、水害リスクの高い地域の開発や高齢者施設建設の抑制といった内容である。

これらの対策は、ダムによる治水を前提としている。ダムや堤防で水を川の中に封じ込める

だけでは不十分であり、流域全体の官民で備えよう、と国は考えているのだ。

それは大きな転換だが、大熊さんはあくまでダムによらない治水を最大限追求すべきだと主張する（毎日新聞2020年8月5日朝刊「クローズアップ」）。堤防を強化し、越流しても破堤しない堤防を整備できれば、あふれる水をゆつくりと受け止め、徐々に流すことで被害は軽減できると、前掲書で訴えている。

家を流され、身内の命を奪われ、必死に泥をかき出す人びとの姿はいたましい。熊本県ではダム建設が中止された球磨川流域に被害が集中した。ダムがあれば、堤防からあふれる水の量を抑え、避難の時間を稼ぐことができた、と河川管理当局は言っている。

ただ、得るものがあれば、失われるものがある。ダムは川の自然を大きく

そこなう。湖底に沈む人びとの

故郷を奪い、生き物の往来をさまたげる。建設と維持に多額の費用と歳月を要し、それゆえに利権を生み出す。ダムができれば流域の人びとは安心しきり、水辺から遠ざかる。いかに国が「流域治水」をさげぼうとも、水とのかかわりを持たなくなった市民が、水防活動や避難で的確な行動を取れるだろうか。

激越な豪雨は、私たちに生き方を問いかける。

「煩わしい自然とのかかわり」を忌避する人が少なくないのが現実である。しかし、自然災害の多発する時代を生きる私たちは、これからも面倒な治水は行政にゆだね、避難も備えも役所の指示で行う生き方を選ぶのか。あるいは少なくとも労力を払いつつ、「災い」と「恵み」の双方を引き受け、備えをして被害の抑制に努めるのか。容易に答えの出ない問いだ。だが、問い続けなくてはならないことだ。

人は太古から水辺で暮らし、水の相の中に「生」の意味を見いだしてきた。水とのかかわりは日本の精神文化の基層にある。「洪水と水害をとらえなおす」で、大熊さんは江戸期の越後の僧、良寛の言葉を引いている。

「災難に逢う時節には、災難に逢うがよく候。死ぬ時節には、死ぬがよく候。是ハこれ災難をのがる、妙法にて候」（水上勉『良寛』中央公論社、1984年）

無為に諦めろと言うのでも、無情に突き放しているのでもない。災難も死も逃れられるものでない以上、受容しつつ懸命に生きろ、と良寛は説いているのだという。私はまだ、この含意を自分のものにできていない。往く川の流れを見つめながら反芻し、治水と社会のありように思いを巡らせている。

「人と水研究会のサイトに、2015年に大熊孝さんが環境社会学会の会合で行った講演の要録を掲示しています。
<https://hiomizu.jimdofree.com/web/ゆき人と水/>

街に関する一考察



連載／第9回

長谷山裕一

Yes is more

建築学科に入って初めてのトレースの課題は、ファンズワース邸の平面図だった。設計はミース・ファン・デルローエ（1886・1969）。名建築を模写すると建築家の意図が理解できると教授は言っていたが、グリット状の単調なプランに、当時の私は、その思慮に触れることは残念ながらできなかった。パウハウスの校長も務めたミースは、デザインの手引として「Less is more」より「少なくて」という言葉を残している。余計なものを削ぎ落とすことによって、対象の本質は浮き彫りにされる。静謐な森に佇む極めてシンプルな構成のファンズワース邸は、彼の思想を反映した建築だったのだ。

ミースの没後5年を経て生まれた建築家ビャルケ・インゲルスは、多くの独創的なプロジェクトを「Yes is more」を掲げ成功させている。多様な条件や相反する要求にも、なんとか解答を出していく姿勢だ。あえて訳すなら「より答えていこう」ではないか。住民から敬遠されがちなゴミ処理場の大屋根を、スキーやクハイクンクができる施設にして、歓迎される場にした「ロベンヒル」。多種多様な移民の争いが絶えない地区に、チュニジアのベンチ、アフガニスタンのブランコなど、民族の拠り所となるエレメントを散らばめ、多様性を顕在化させた公園「スーパーキーレン」。「Yes is more」は、社会や都

市の問題を、まずはポジティブに受け止め、複合的に克服し新しい解を街に与えている。

国は外出自粛要請を出し、街からは人が消えた。街にとって削ぎ落としてはいけないもの、それはまされもなく人である。今、世界の人々は新型ウィルスだけでなく、経済不況、

環境破壊、差別など、大きな危機に直面している。本質を見失わず、目の前にある課題を受け止め、より答えていこうとする姿勢を持つことが、この困難を乗り越えることになるのではと、マスクが薫風を遮るなか今日も考えるのである。



PROFILE

函館市生まれ。建設会社を退職後、地方公共団体に入庁。まちづくりや市民活動支援、交通政策などに従事。

水泳授業。

庄司 証／函館圏フリースクールすまいる・代表

少し時期がずれてしまいが、この夏に帰省すると、母親が「今年は少し淋しいのよね」と一言。言われてみると、確かにいつもと違うことに気がついた。プールではしゃぐ子どもたちの声が聞こえないのだ。

地元のプールは、コロナ禍の影響で開かれていなかった。この夏休み、函館市内で開放される学校のプールもわずかに限られており、母と同じように、静かな夏の風景に、物足りなさを感じている方は少なくないのではないだろうか。

そのようなことで、今年の夏は、プールでの授業がなくなってしまったそうだが、そもそも

プールでの授業が始まったのはいつからなのだろうか。函館史の中では、1972年に鍛神小学校に水泳プールが完成し、子どもたちがとても喜んだという記録が残っている。

全国的に学校プールの設置が行われるようになったのは1950年代のことだ。直接の契機は、三重県津市の中学生が水泳訓練中に起こった「津海岸集団水難事件」などの重大な水難事件が重なっていたこと。また、「紫雲丸

衝突事故」により乗船していた修学旅行中の子ども達の命が失われたことから、その対策の必要性が論じられるようになったことによる。そのため、国がプールの設置と水泳授業が行われるようになった。

実際に、溺死者数や水難事故数は低下しているが、特に今年はコロナ禍の影響か海や川で遊ぶ人が増え、それに伴って例年以上の事故が起こっているところもある。近代の水泳は競泳種目の泳法指導が多くなっているが、改めて、自らの安全を守ることでも大切にしていきたいものである。



さて、プールではしゃぐといえば、筆者が子どもの頃には、いわゆる「腰洗い槽」と呼ばれる冷たくて浅い消毒槽に数秒つかり、冷水のシャワーをもうぐらねばならなかった。これが原因でプール嫌いになった人もいたほどに辛く、さながらテレビのバラエティ番組のようにみんなキヤーカー言いながら入ったものだった。

しかし、今の子ども達にあの「苦行」を話しても信じてもらえないのである。文科省が2001年に、ろ過装置など衛生的に向上しているプールでは原則不要とした。さらに、シャワーでの洗浄が推奨されたことから、温水シャワーになったところも多い。

今年はプールでの授業はないものの、改めてその魅力とともに、水の危険についても子ども達に伝わって欲しい。そしてまた、来年はプール開きと、そこで楽しそうに遊ぶ子どもたちの声が聞こえることを願っている。



PROFILE

七飯町出身。北海道教育大学大学院修了。在学中から「チャーキーリスト教学園」の活動に参加し、2012年「函館圏フリースクールすまいる」設立。不登校や若者の居場所支援などを行っている。

食旅脳内メモリーズ

祭りと温泉編

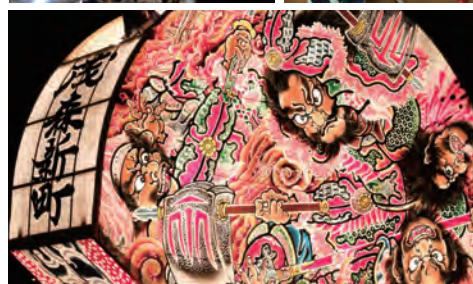
[食旅脳内メモリーズ]

国立大喜



飛行機が離陸する瞬間は日常から解き放たれる格別な瞬間だが、船が港から出発する時もまた、ゆったりとした時を感じながら非日常へ誘われていく味わい深い時だ。船は函館から津軽海峡へ。2018年家族四人テント持参で「北東北夏祭り」＆「八甲田山・八幡平の山中にある温泉巡り」旅に出かけた。快晴のフェリーデッキの上で爽やかな風を感じ、晴れやかな心持で旅が始まる。発祥から数えると300年近い歴史を持つと言われる「弘前ねぶた」を観に弘前に入る。友人と待ち合わせ、商店街のお店ごとに特徴のある屋台を覗き、山車が見える場所で祭り前の夕暮れ時間を堪能する。右手には麦酒。ねぶた絵師が描いた幽玄な美の世界。扇型の平面絵がほんのり灯された灯りに映され、奥深い淡い美しさが祭りを彩る。静のねぶた・動のねぶたと表現される。弘前ねぶたの淡い美しさは、夏のお盆に先祖を迎え、過ごす前の時期にとっても相応しい時間と感じた。青森に移動し、八甲田山の北口に位置するキャンプ場で過ごす。車で「酸ヶ湯温泉」や「薦温泉」までもアクセスが良く、贅沢なキャンプ生活。歴史ある趣深い温泉の建物や空間を味わうところから温泉の味わいは始まる。お湯に入る前から、雰囲気だけで気持ちが温まる。温泉までの八甲田・十和田ゴールドラインからの幻想的な山の景色も時間帯によって美しさが増し堪能した。友人からねぶたのハネト衣装も借りて「青森ねぶた」の準備万端であったが、その日は雨模様。「跳ねてこそそのねぶた！」と聞いていましたが、ねぶた師の作る壮大な人形灯籠の迫力、ハネトたちの作り出すリズムとグルーブを沿道からでも十分満喫。翌日は秋田へ旅の舞台を移す。八幡平最古の秘湯「蒸ノ湯温泉」へ。つげ義春の漫画にも出てきたという温泉宿。岩魚の骨酒呑みつつ、流れる昭和の空気感味わう。最終日は秋田市内にて提灯並ぶ長い長い竹竿を操る「竿燈まつり」の力強い妙技に酔いしれる。小さな子供たちも伝統を引き継ぐよう

に小さな竿燈で舞っていた。ありがとう美しい北東北の夏の日々。また子供たちと再訪したい。



PROFILE

函館に生まれ、地元の高校を卒業後は岩手県の大学へ進学。札幌のシンガポール料理店やトルコの現地料理店で学ぶ。函館末広町にてトルコ料理店を運営。現在、北海道由仁町へ移転準備中。

Illustration by Tomoka Kunitate



「Fukushima 50」 (2020年)

フクシマ フィフティ



監督／若松節朗 脚本／前川洋一
原作／門田隆将 音楽／岩代太郎
出演／佐藤浩市、渡辺謙、吉岡秀隆、安田成美、
緒形直人、火野正平

新型「コロナウイルス」は、全世界に
変革をもたらしています。日本
でも「3密を避ける」「リモート
ワーク」「ソーシャルディスタン
ス」等々、次々に新しい生活スタ
イルが誕生。今年の春は映画館
に行くこともままならなくな
りました。

日常のすべてが根こそぎ変え
られてしまったような状況です
が、各々の「映画を観る」スタイル
にもまた新たな流れが生まれて

きています。

これまでは劇場公開が一般的
だった新作映画の、届け方にし
ても、かつてない動きが模索され
ています。口火を切ったのは、
「Fukushima 50」のデジタル配
信でしょう。通常、劇場公開のタ
イミングでデジタル配信は行い
ませんが、コロナ禍で映画館が休
業に追い込まれ、このような、異
例の動きが生まれました。

2011年に発生した東日本
大震災、そして福島第一原発事
故。原発事故の関係者90人以上へ
の取材をもとに綴られた、ジャー
ナリスト・門田隆将渾身のノン

フィクション作品を映像化。未曾
有の事態に命を掛けて立ち向
かったおよそ50名の現場作業員
たち。世界から「Fukushima 50」
と呼ばれた彼らの数日間、そこで
起きていた「真実」を、日本屈指の
実力派キャストで描いた社会派
エンタテインメント。
因みにこちらは「期間限定」の
緊急措置であり、現在は劇場公開
しています。

PROFILE

滝川市出身。函館における数多くの文化
事業や施設・イベントの企画運営に携わ
る。

WU-BOOK

●ウー・ブックスの書棚から。

夏井俊介／ウーブックス店主



先日、日本国内の某オークションを物色
していたところ妙に値段の高い、これまで
見たことも聞いたこともない1冊の本が出
品されていた。それは「煩悶記」という題の
みが印刷された素っ気ない装丁の文芸書。
刊行は明治40年(1907)年とされている。
この本と著者について調べてみると、この
本をめぐる興味深い縁が浮かび上がってき
た。著者の藤村操は北海道出身で、東京の
高校へ通っていた際は、夏目漱石が担任を受
け持っていたクラスの生徒であり、漱石の
作品の中には彼とのエピソードが頻出して
いる。藤村は厭世感から「巖頭之感」なる遺
書と自らの死をもって当時の社会に波紋を
呼び込んだ。この「煩悶記」はまさに奇書と
いうべきもので、死んだはずの藤村が生き
延びて書いた偽書として藤村操名義で出版
された。しかし、出版直後に発禁処分を受
け、幻の書物として今日まで至るそう。現
在は3冊しか確認されていないそうで、先
のオークションで4冊目の発見ということ
になろうか。いずれも85万円から147万円
と高額で落札されている。



PROFILE

群馬県生まれ函館市育ち。夏井珈琲勤務の傍ら、
古書販売や本に関わるさまざまなイベントを企
画する WU-BOOK を運営。古今東西の素敵な本
を発掘して紹介している。

5階から目薬。



第1回／中村ひでのり (イラスト・文)

木子幸三郎と宝くじとカッパドキア。

仕事場のそばに、以前から気に
なる建物があった。大正時代に十
二銀行(現北陸銀行)函館支店と
して建てられ、その後函館信用金
庫(現道南うみ街信用金庫)が本
店として平成15年まで使用して
いたこの建物は、皇室関係の建築
を多く手がけたことで知られる
建築家・木子幸三郎の設計だとい
う。この由緒正しい建物が、今年
のはじめに解体され更地になっ
てしまった。外から見てもかなり
老朽化が進んでいるように思わ
れたが、それでも魅力的な建物
だったので非常に残念だ。

● 大門のアーケードが無くなっ
たのは衝撃だったし、棒二森屋の
閉店も寂しい。「それならおまえ
はボー二を利用していたのか」と
訊かれたならば、年に数度、地下
の食品売場でおにぎりを買う程

度だったので何も言えない。たい
して利用もしていないのに続け
て欲しいというのは、まったく
持って無責任な話だというのは
わかっている。
「維持する側の身にもなってい
る」と言われれば返す言葉はない
のだけれど、古い建物がどんな
壊され、駐車場だらけになってい
く街の様子を見るのはつらい。

● もしも宝くじが10回当たった
なら、貴重な景観を残すために役
立てて欲しいと市に寄付をしよ
う。僕はそういう太っ腹な男だ。
が、「ちょっと待て」ともつ一人の
自分が引き止めたりもする。人
生何が起こるかかわらない。例え
ばかわいそうなことに、カミさん
が急な病で逝ってしまったことだ
つてあるかもしれない。子どもた
ちも独立し、母親のいない実家に

なんか寄り付かなくなるだろう。
そうなる孤独なひとり暮らし
だ。そんな時には頼れるものが必
要だ。そう、この当りくじを握り
しめて、第2の人生をスタート
させなくてはならない。

もちろん子どもたちにも多少
分けてやるとして、残りはカッパ
ドキアの洞窟に住んでみたいと
いう、昔からの壮大な夢の実現の
ために使うこともできる。暮ら
始めて1年ほど、トルコでの生活
にもまだまだ不慣れな状態だ。
ある日、スーパーに買い物に行く
とエキゾチックな顔立ちのトル
コ美女が、僕のぎこちない様子を
見て「何カオ困リデスカ?」と声
をかけてきたとする。「@#\$%^&*
@#\$%^&* (デシエキュル エデリム
)(※トルコ語でありがとつ)と僕
が礼を言い、いっしょにお茶でも
どうかと言っことになるだろう。
話を聞くと、相手も夫に先立た
れ、今は独身だという話になるか
もしれない。そこから大人の愛が
芽生え、寂しい者同士いっしょに
暮らしましょうかとなるのは、世
界共通の不文律だ。幸い手元には
充分な資金がある。その時には、
「ああ、寄付なんてしないですよ
かったあ」と、もう一人の冷静

だった自分に深く感謝すること
になるだろう。

● というわけで、函館市には個人
の善意ではなく、行政の力で、函
館の貴重な景観維持のためにご
努力願いたい。

若い頃、友人のSが、
「トルコって、世界でも有数の
美人大国なんだぜ」と
熱く語っていたが、

海外にはグアム旅行にしか
行ったことのない彼が、
どこでその情報を仕入れたかは
定かではない。



寒風干し

西野鷹志／文・写真

戦後もないころ、親父は会計事務所の看板を自宅にかかげたが、しばらくは顧客ゼロであった。

囲炉裏をかこみ身欠きニシンをかじり濁酒を飲んで、俺は天下の素浪人〃とさけんでいた姿が目には焼きついている。酒が足りなくなると、小学生の僕は、夜ふけに酒屋に走った。肝がふとく大酒飲みだった親父の墓に一升瓶をそそいだあと、函館山のふもと入舟漁港のあたりをぶらぶら歩き、そこで寒風干しに出会った。

家の軒下につるされたサケが7、8本、冷たい浜風にゆれている。切りさかれた紅ザケの腹は、真っ赤に染まり旨そう。

3日後、また軒下をのぞいたら今度はイカが干され、紅ザケは2階へ移されていた。父が毎年つくっているの、北洋へ行った経験があるから干し方がうまいのよ、と家から顔をたまたま出した娘さん。

北洋のサケマス漁業が盛んなころの函館は、魚一色の街で

あった。石川県は大聖寺出身の祖父・西野吉太郎は、戦前、ロシア領のカムチャツカでサケマスの漁場を営んでいた。東カムチャツカのかなり北、紅ザケが獲れるオッソラ河口の漁場。ロシアの軍艦であった船を改造した二隻が持ち船で、その船長室で親父は子供のころ遊んだという。

世がうつり大手の日魯漁業へ漁業権を売って、晩年は、骨董と競馬三昧であった。幼いころの親父、家のなかで遊びまわって松前藩家老で実力派の絵師・蠣崎波響が描いた屏風絵に足を突っこんだ、とか。だが、祖父が極楽往生をとげたとき、借金だけが残されていた……

北洋にわき北洋にしずむ人間模様があった。こんな栄華と没落、光と影が、港町函館に深い味わいを生んだといえる。



サケの寒風干し 2001



親父・西野吉一 二日酔いの迎え酒 1960

PROFILE

西野鷹志(にしの・たかし) 東京生まれ、函館育ち。タウン誌・街で「ライカは行く」を17年間連載、2012年・147回で終えた。すきなもの—フランスパンの皮、ブルゴーニュワイン、ライカM6。



イカの一夜干し 入舟漁港 2019

HIF子ども食堂に多くの支援、寄付

北海道国際交流センター(HIF)が2016年から始めた「にこにこども食堂」。お寺から寄付を、農家から野菜をいただいたり、学生や一般の方々にボランティアで調理にあたっていたり、多くの方々の善意によって成り立っている。全国的にも困窮する子どもや外国人への支援の輪は広がっており、4月から多くの企業がHIFを窓口寄付を寄せてくれている。

最初に、アサヒホールディングスからは全国10カ所の子ども食堂に、傘下企業で製造するカルピス、カルピスウォーターなど約19万本、フリーズドライ100万食、「なだ万」の食品類約3万個と、1億5千万円相当の食料品の寄付があった。HIFの子ども食堂にも届いたが、10トン車で2台分、教室の一室が天井までいっぱいになるほどだった。

その後もケロッグ、ドールのフルーツ、スムージー、雪印のビーンスタークなど

が大量の箱単位で届いた。経済団体連合会経由で中国のアリババグループから使い捨てマスクも2500枚届き、子ども食堂や関係者に配ることができた。地元の農業協同組合や農家も、子ども食堂の運営を大いに応援してくれた。またタレントの佐藤健さんが、子ども食堂にと呼ばれたyahoo基金でも多くの寄付が集まった。

HIFでは今後、全国の子ども支援ネットワークと協力してフードロスを減らしながら、多くの寄付を子どもたちに届けられるように活動してゆきます。



「子ども食堂のネットワークから、地域のこれからを考える」

日時：2020年11月15日(日) 10:30~16:00

【イベント内容(予定)】

- ・子ども関連の助成金説明会、企業交流会
- ・子どもに関する講演会「子どもたちの未来を考えよう」
絵本「もったいないばあさん」作家・真珠まりこさん
- ・フードバンク苫小牧ミニセミナー 所長 松崎愛さん
- ・フードパントリー(子ども食材配布)、交換会
- ・子ども学習支援関連出展

会場：函館コミュニティプラザ Gスクエア(シエスタハコダテ4階)

イベントスペースA・B、多目的ホール

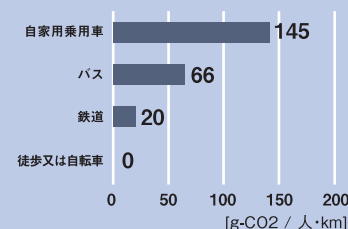
主催：北海道国際交流センター(HIF)



(一財)北海道国際交流センター(HIF)
040-0054 函館市元町14-1
TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail: event@hif.or.jp

<http://www.hif.or.jp>

1人を1km運ぶのに排出されるCO2



参考:「働き方改革によるCO2削減効果」簡易算定ツール

海外からの学生を受け入れて日本語教育、日本にいる留学生のホームステイなど、40年余りに渡って活動してきた国際交流活動が、新型コロナウイルスの影響で全て中止になった。そんな状況を受けて始めたのが、3つのこと。ひとつは、技能実習生が来られなくなり、人手不足の農家での作業、二つ目は、オンライン情報発信事業で、国際

情報の提供やサポートだ。そして、三つ目が、テレワーク(在宅勤務)の推進だ。もともと、パソコンで書類を作ったり、企画をしたりという仕事もあるため、パソコン作業ではテレワークはできると考えられた。しかし、打ち合わせや、外部への営業、あるいは相談業務など、対面だからこそ、できていたものについては、少々抵抗があった。しかし、社会は自粛の動きで、我々もそこに呼応する形で、テレワークシフトを組んでみることにした。WEBカメラも何とかな手に入れて、ZoomやGoogle Meetを使っての作業。はじめは、やれつながらないものの、資料が共有されない、声が聞こえないなど慌てることも多かったが、次第に慣れてく



新たな日常を受け入れる取り組みとして、最初は、「対面でなくては伝わらない」と考えていたところが、準備や進行さえきちんと進めると、違和感もなく、今まで出張で打ち合わせや会議をしていたものも、オンラインで十分という意識が生まれ始めた。加えて、通勤のほとんどが、自家用車を使うという環境にあって、地球温暖化防止にも一役かかっていると考えられる。自家用車で通勤するスタッフは8名で、1日の往復通勤距離

の合計は154.2km。年間240日勤務と考えると、年間37008kmと、地球1周分に近い距離となる。環境省が提供する計算ツール(※1)の計算結果によれば年間約5.4tのCO2を出していることにもなり、樹齢40年の杉の木がそのCO2を吸収するとなると、610本必要になるということだ(※2)。これほどまでに環境に影響するということは驚きであり、自家用車の使用が多い地域で在宅勤務の取組みが広がれば、温暖化防止の効果は大きいと考えられる。

※1 「働き方改革によるCO2削減効果」簡易算定ツール(URL) <http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/co2.html>

※2 林野庁HPにおける計算例を参考とした。(URL) https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/20141113_topics2_2.html

公益財団法人 北海道環境財団

(北海道地球温暖化防止活動推進センター)

札幌市中央区北4条西4丁目1 Tel: 011-218-7811

(北海道環境財団は、地球温暖化防止のため、テレワーク(在宅勤務)の推進を行っています。)

もののふ 激動の幕末、最後の武士達の希望—星形の城・五稜郭



二百六十年の幕藩封建体制に終止符を打つ契機となった「開国」。五稜郭は、「開国」に伴い開港場となった函館に徳川幕府が築いた、幕府の権威を象徴する、我が国最大の西洋式の要塞です。しかし時代の流れは「大政奉還」「王政復古」を経て、日本最後で最大の内戦「戊辰戦争」に突入。五稜郭は徳川の侍たちの最後の抵抗拠点として、明治維新の歴史に刻まれているのです。星形の城—五稜郭で、最後の武士(もののふ)達に思いを馳せてみませんか。



桜花の五稜郭



錦秋の五稜郭



雪化粧の五稜郭



五稜郭タワーコレクション 「植木蒼悦ギャラリー」(観覧無料)

函館ゆかりの芸術家、植木蒼悦の芸術世界をご紹介します小さなギャラリーを開設しました。彼の代表的モチーフである「河郎」(河童)を描いた作品の他、山水・書・俳画・油彩・抽象など、清貧と孤高に徹した生活から生みだされた独特・多彩な画境をご覧ください。



五稜郭タワーの最新情報は、
公式ウェブサイト、Facebook、
Instagramから発信しています☆
www.goryokaku-tower.co.jp



五稜郭タワー

函館市五稜郭町43-9 TEL 0138-51-4785



季刊 [アット・エイチ]
@h

AUTUMN 2020

●発行人
池田 誠 (HIF)

●編集人
中村ひでのり

●編集スタッフ
吉村美悠
笹木明日香

●デザイン
中村事務所

●撮影
saeru

●イラストレーション
中村ひでのり(表紙・本文)
国立朋佳(本文)

●サポーター会員(敬称略)
稲泉省/鈴木昭次/前岡一郎
松本百合/川上 納/田中真一
山下淳一/栗林ゆか/香内孝之

●運載&編集協力(敬称略)
中川大介
長谷山裕一

●運載(敬称略)
西野康志
庄司 匠
米田哲平
夏井俊介
国立大喜

次号は
2020年12月31日発行です。

2020年秋号(年4回発行)
2020年9月31日発行
(一財)北海道国際交流センター(HIF)
[@h(アット・エイチ)]編集事務局
040-0054 函館市元町14-1
TEL 0138-22-0770 FAX 0138-22-0660
E-mail volut@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volut/

禁・無断転載

[@h] 設置場所

【全店配布】ラッキービエロ/ハセガワストア/郵便局(一部)/生活協同組合コープさっぽろ/みちのく銀行/道南うみ街 信用金庫/美容室アイズ

【本町・五稜郭付近エリア】函館市芸術ホール/函館市中央図書館/総合保健センター/北海道新聞社(道新文化センター)/函館YWCA/レストランバスコ/ワーカースコップ茜/シネマアイリス/函館市青年センター/北海道教育大学函館校/Colz/Bees.Bee/函館短期大学付設調理製菓専門学校/クラブカットE'/おおわき整形外科/喫茶Canvas/夏井珈琲ブリュッケ/ちいさなしあわせパン/G スクエア/Relotta cafe/函館圏フリースクールすまいる/中島れんぱいふれあいセンター

【函館駅前付近エリア】函館市役所/工房虹と夢/Pizzeria AMORINO/NHK/千歳図書館/サンリフレ函館/函館駅前バス案内・待合所/函館市総合福祉センター/百間/VILLAGE

【美原・本通・中道・桔梗付近エリア】亀田支所/渡島総合振興局/Cafe en/ROYAL SKOOL/水花月茶寮/ドゥ・アンジュ/花の湯/桔梗配本所(桔梗母と子の家)/LADIGUE/ 珈琲物語 /Pizza and BIANCHI /お総菜大地/チッチョ/バステッチョ/公立はこだて未来大学/文教堂桔梗店/三省堂/タイヤ館函館本店/亀田公民館/わつとな/ファイヤービット/おしま地域療育センター/ スプリング /ボードユニティ21/ばん屋 wakka

【西部地区エリア】北海道国際交流センター(HIF)/Pain屋/ふるる函館/MOSS TREES/金森赤レンガ倉庫/FMいるか/バル・レストラン・ラ・コンチャ/甘味茶房花かんろ/Old Miss 菊/ギャラリー村岡/金子眼鏡店/カフェやまじょう/ロシア極東連邦総合大学函館校/Cafeteria Morie/函館市女性センター/はこだて工芸舎/函館市公民館/函館市地域交流まちづくりセンター/ROMANTICO ROMANTICA/Select Coffee Shop Peacepiece/和雑貨いろは/Cafe Classic/箱館元町 珈琲店/Cafe & Deli MARUSEN/カフェDici/おひるごはんカフェ taom/SMALL TOWN HOSTEL Hakodate/tombolo

【五稜郭駅・昭和エリア】Beauty Concierge AOKI/港図書館/北海道大学水産学部/函館市亀田青少年会館/Seak

【山の手・湯の川・旭岡付近エリア】旭岡図書館/銭亀沢支所/函館市民会館/湯川支所/湯川図書館/函館大学/函館短期大学/函館工業高等専門学校/花園温泉/カット&クリニックたかすぎ

【北斗市エリア】北斗市役所/かなで〜る/LEAVES/しんわの湯/北斗市スポーツセンター/北斗市公民館/久根別住民センター く〜みん/七重浜住民センター れいんぼー/Coing

【七飯・大沼エリア】こなひき小屋/ななえ天然温泉ゆうひの館/七飯町文化センター/大中山モモンレストランビノ/宮崎鯉屋/南北海道大沼婦人会館/カントリーキッチンWALD/大沼国際交流プラザ/ネイバル森/foufou/Studio Lumier/七飯町役場/大沼国際セミナーハウス/おおは製パン

いろんなこと、募集しています!



●[@h]はおおぜいの方々のボランティアによって支えられています。安定した運営のため、広告の掲載、または協賛して下さる方(サポーター会員)を募集しております。年会費は一口、団体/¥10000、個人/¥3000です。みなさんのご理解とご協力、よろしく願います。なお、広告の掲載料につきましては事務局までお問合せください。

●編集部では読者のみなさまからのご意見・ご感想、さまざまな情報をお待ちしております。お気軽にお寄せください。ご協力よろしくお願いします。

【@h 編集事務局】

TEL 0138-22-0770 FAX 0138-22-0660
E-mail volut@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volut/